UAゼンセン機関誌　Yuai 1月号平成27年1月1日（毎月1回1日）発行
第834号 昭和23年6月14日第三種郵便物認可

Yuai

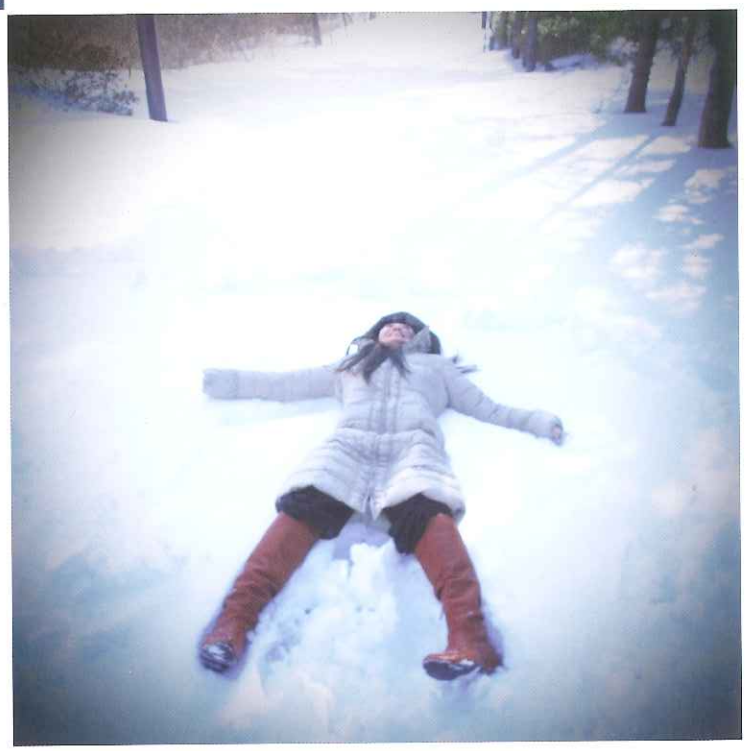
for your work-life balance

平成27年 1月号

特集

未来に、この地に生きる人へ みどりの森を贈ろう

4年目の海岸林再生プロジェクト



UAゼンセン
リーダーの100冊 2015

特集 未来に、この地に生きる人へ みどりの森を贈ろう

4年目の海岸林再生プロジェクト

伊達政宗公の時代に造成された宮城県南部の海岸林は、400年の間、飛砂や塩害、強風や高潮から人々の暮らしと農地を守ってきました。しかし、東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受け、仙台平野から福島県の海岸線には、クロマツの倒木が延々と続きました。

国際協力NGOのオイスカは、ライフラインともいえる海岸林をよみがえらせるため、震災後すぐに「海岸林再生プロジェクト10カ年計画」をスタート。被災した農家の人々と種をまき、大切に苗を育てて、ようやく昨年、苗木を植える段階までこぎつけました。

UAゼンセンは被災地の復興・再生へ向けた活動の一つとして、このプロジェクトに参加することを決め、昨年からボランティア派遣を開始しました。息の長い活動は、始まったばかり。さあ一緒に、未来の人達へ豊かな海岸林を贈りませんか。

オイスカ「海岸林再生プロジェクト10カ年計画」2011−2014年の活動と、これから

被災した地元の人々とともに
名取市の海岸林100ヘクタール・
50万本の再生を目ざす

オイスカは50年以上、開発途上国などで農業支援や植林活動を進めてきた国際協力NGO。震災後すぐに、海岸林再生への協力を表明した。現地からの要請もあり、宮城県名取市で「海岸林再生プロジェクト10カ年計画」をスタート。「名取市海岸林再生の会」の人々と活動を進め、ことし4年目を迎える。

クロマツの稚苗　2012年6月5日

種まきから1カ月、小さな芽が出た。発芽率は95%。すくすくと成長するクロマツに、育苗に携わる人々は安堵の表情を浮かべた。「めんこい、めんこい（可愛い）」。写真は、種まきから60日目の稚苗。

初の種まき　2012年3月30日

海岸林の再生には膨大な数の苗木が必要となる。そのためオイスカでは、雇用対策も兼ねて種苗生産から行うこととした。準備から半年、初めての種まきが行われ、クロマツの種子約2キロ・10万粒をまいた。

復興への願いを背負ってクロマツはたくましく育つ

震災前、名取地区の農家では、小松菜や青梗菜（チンゲンサイ）が盛んに栽培されていた。この地方では、五月から八月にかけて、オホーツクから冷たい〝ヤマセ〟が吹きつける年があり、海岸林が畑を守ってくれた。海岸林がなければ、冷害に見舞われ、農業は致命的だという。

この地には、子供のころから海岸林とともに生き、白砂青松をふるさとの風景としてきた文化があった。村じゅう総出で造林に取り組んだ「愛林」の碑も残っている。

「もう一度、海岸林を取り戻したい」。人々は、オイスカの協力に一条の光を見出した。一から講習を受け、林業種苗生産者の資格を取り、種苗組合にも加入して、クロマツの苗木づくりに取り組んだ。それから二年。クロマツの苗木は、人々の思いに応えて丈夫に育

植栽スタート　2014年4月28日

植えるのは、森林組合などのプロ。一人一日約三百本。地温、気温、天候など諸条件がベストな時期に一気に進めなければならない。二〇一四年度は、十六ヘクタール、七万八千五百本の植栽を完了した。

東北にもう一度、白砂青松を取り戻したい

植樹祭を祝う　2014年5月24日

2014年春、2年間大事に育ててきたクロマツの苗木が、ようやく海岸に植えられた。5月末、多くの市民を招いて植樹祭を開いた。この先、地元の人達の手で、末長く守っていってほしいという願いを込めて。

1年生苗の床替え　2013年4月18日

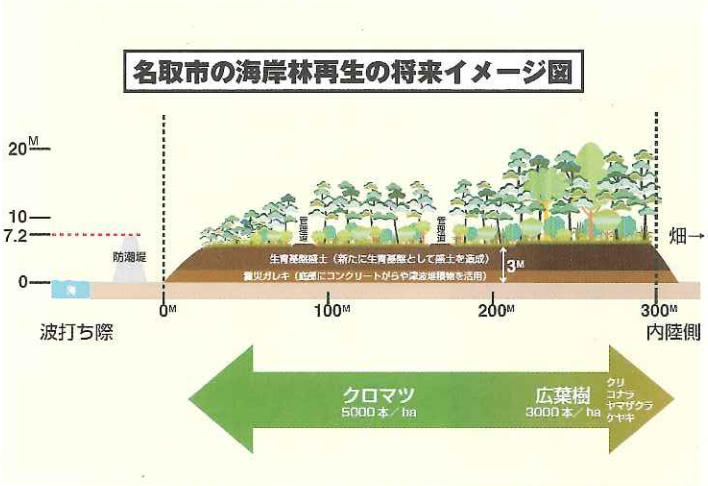
苗木を一旦掘り取り、伸び過ぎた根を切り取って植え直す。床替えをすることにより新しい根が出てきて、根張りのいい苗木がつくられる。育苗は根気のいる作業。現場では、女性達が重要な役割を果たしている。

った。そして、二〇一四年春、出荷のときを迎え、いよいよ海岸への植栽がはじまった。

オイスカは、二〇二〇年までの十年間に、名取市の百ヘクタール・約五十万本の海岸林の再生を目ざしている。さらに、二〇三三年まで保育管理を行うとしている。この間、育苗や植栽、育林のために雇用される地元の人は、延べ一万二千名に及ぶ。

オイスカでは、プロジェクトの総費用十億円を寄付でまかなっている。現在のところ、年間一億円の目標額は達成できているが、震災がどんどん風化し、世間の関心が薄れるのが怖いという。「プロジェクトの意義を知ってもらい、広めてほしい」と、オイスカの吉田俊通さんは訴える。

年末、吉田さんから、二〇一四年度に植えた七万八千五百本の苗木がすべて根付いたとメールが届いた。厳しい冬を越し、みどりの森になるまで、無事に育ってほしいと願う。



UAゼンセン「海岸林再生プロジェクト」ボランティア活動

6チーム、延べ160名の仲間が願いを込めて

海岸の過酷な環境からクロマツの苗木を守るには多くのボランティアの手が必要となる。夏場は、除草だけでも大変な作業。UAゼンセンは2014年、合計6回のボランティア派遣を行い、延べ160名の仲間達が汗を流した。

第1回ボランティアチーム　2014年5月17日

除草、下刈り、根踏み、施肥…
現地ではたくさんの手を待っている

クロマツに加え広葉樹の苗木も育てる

育苗場では、沿岸の過酷な環境で育つクロマツの苗木に加え、クリやコナラなどの塩分に強い広葉樹の苗木も育てている。将来、この木々が母樹となって種を落とし、多重構造の豊かな森に育つことを祈りながら。

クロマツの苗木くん 元気に大きくなって！

育苗場で除草作業 必死に生きる苗に 愛情を感じる

午前中はひたすら育苗場で草取りを行う。雑草の伸びるパワーにはびっくりする。最初は、草に隠れていたが、雑草を抜くと、きれいに並んだクロマツの苗が現れた。

第3回ボランティアチーム　2014年7月5日

第2回ボランティアチーム　2014年6月11日

苗木を乾燥や 強風から守る

苗木の根元に、津波で倒されたクロマツのチップを寄せることで、乾燥を防ぐことができる。また、砂混じりの強風で根元が傷つくのも防げる。「一本でも多く、厳しい環境を生き抜いて」。

一本一本の苗木に 肥料を与える

海岸の植栽地は、栄養が乏しい。元気に育つように、一本一本の苗木にスプーンで肥料を与える。その作業は、スクワットの繰り返し！。

約七メートルの防潮堤が完成した。しかし、海から吹きつける"ヤマセ"から農地や暮らしを守るには、不十分という

葛の引き抜きや下刈り作業にたくさんの人手が必要

海岸の植栽地で、葛（クズ）の引き抜きや下刈り作業を行う仲間達。夏場には、葛は1日1メートルの勢いで伸びるというから驚く。炎天下、葛との根比べが続いていた。

第5回ボランティアチーム　2014年9月20日

ボランティア活動にとりかかる前に、育苗場で説明を受ける仲間達。海岸林の重要性や活動の経緯について理解を深めた

第4回ボランティアチーム　2014年8月22日

海岸林造成は百年の計――
苗木が成木に育つまでに30年以上。
次の世代へ、思いをつないでいこう

第6回ボランティアチーム　2014年10月18日

地元農家、林業のプロ、ボランティア“協働”の輪で海岸林をよみがえらせる

「未来の海岸林の姿を思い描きながら作業をしました。自分が少しでも、復興に関われたことがうれしい」。

全国から集まったUAゼンセンの仲間は、丸一日、種まきや除草、下刈り、施肥などの作業に当たった。どれもきつい作業だったが、夕方、記念写真におさまった仲間達は、みんないい表情をしていた。

UAゼンセンは二〇一三年にプロジェクトへの支援を決定し（八月六日・第六回中央執行委員会）、二百万円の寄付を拠出。二〇一四年からボランティアの派遣を開始した。

「ボランティアの、ゆっくりだけれど、ていねいな仕事が加わることで、クロマツの成長をより確実なものにすることができます」と、オイスカの林久美子さんは感謝を込める。

活動に参加した仲間が、組合や職場に戻り、プロジェクトの意義を伝えることで、組合や会社に取り組みが広がっている。

二〇一五年も、まもなくボランティアの募集がはじまる。さあ、未来へ木を贈ろう。

海岸林再生プロジェクトの意義を広め寄付やボランティア活動につなげよう

オイスカは、東京や仙台で写真展を開催し、活動をPRしています。また、組合大会などへの写真パネルの貸し出しも行っています。

オイスカ活動報告DVD　配信中

右のQRコードから、「海岸林再生プロジェクト10カ年計画」のこれまでの活動を見ることができます。
（配信期間は2015年6月1日まで）